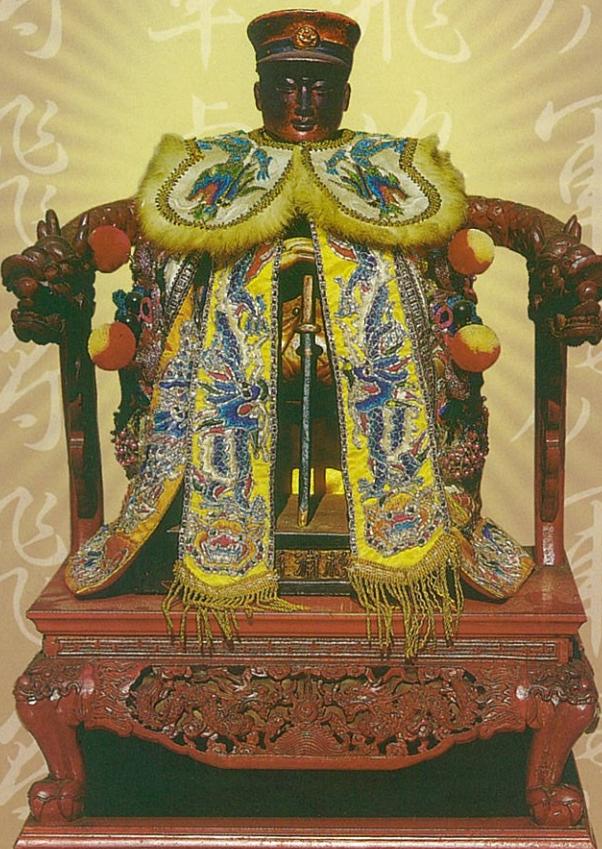


鎮安堂

飛虎將軍廟



台灣台南市海尾朝皇宮管理委員會隸屬鎮安堂

住所：臺南市安南區同安路127號

TEL : 886-6-2478884

FAX : 886-6-2567037

鎮安堂「飛虎將軍廟」—台灣で神と祭られた日本軍人—

台南市の北西五キロの郊外に、早くから日本に名が伝わった「鎮安堂・飛虎將軍廟」がある。祭られているのは、太平洋戦争中台南上空の空中戦で、壮烈な戦死を遂げた日本海軍飛行少尉「杉浦茂峰」（当時兵曹長）なのである。どうして日本軍人が神として祭られ、「飛虎將軍」と尊称されているのか。その「秘話」は。



●日本皇族「六條有康」親王本堂に参詣。1995.7.25.

話は一九四四年十月十二日に溯る。太平洋戦争も末期近く、アメリカ軍は、フィリピン攻略作戦の前哨戦として、台湾各地に航空決戦を挑んできた。その火蓋が切られたのはこの日であった。午前七時十九分米軍台南来襲、日本零戦上昇邀撃、二十分には戦闘開始。日軍は勇戦に努めたが、数を頼むアリメリカ機群に衆寡敵せず、一機又一機と撃墜されていった。中には体当たりを敢行したのもあった。当時この空中戦の目撃者の話に依れば、一機の零戦も敢闘よく敵を制したが、いつの間にか無念にも敵弾を受けて尾翼より発火し、爆発が寸時に迫る危機に瀕した。零戦は部落目がけて急降下の最中、何気なく地面をみた途端、何と下は丁度「海尾寮」という大部落。ハット身も凍る様な戦慄に襲われた。

今飛び降りたら自分は助かるかも知れない。
けれども何百戸という家屋は焼かれるだろう
竹や木と土れ造られた家屋は、
一旦火が着くとすぐに焼れるだろうし

こう判断した飛行士は、すぐ機首を揚げて、上昇の姿勢に移った。突然上昇すると、部落の外郭の東がわ（同安路一帯当時は畑と養殖場）に向かって飛び去った。飛行機は空中で爆発した、パイロットは落下傘で飛び下りたが、不幸ながらグラマンの機銃掃射を浴

びて、落下傘は破れ、飛行士は高空から早い速度で地面に叩きこまれ、仰向けになって畑の中（飛虎將軍廟の付近）に落ちて戦死した。軍靴には「杉浦」と書かれていた。その後、元日本第二〇一海軍航空隊分隊長・森山敏夫大尉の協力に依り、「杉浦茂峰」と判明した。

翌年、1945年、戦争は終わり。何年か経って、部落のあちこちで、不思議な夢を見たという噂が広まった。白い帽子と服を着た日本の若い海軍士官が枕元に立っている夢を見たという者が、皆に話たら、同じ夢を見たというものが数名名乗りでた。数年前の記憶を辿り、1994年10月12日の空中戦を目撃した人々が、当日日本機一機が尾翼より発火し、部落目がけて急降下の最中に、急に機首を上げて、部落外れの東に向かって飛び去ったと、当日の壮烈な状況を皆に話し聞かせた。海尾朝皇宮の祭り神保生大帝にお尋ねしたら、当時の戦死者の亡靈だと言う。

部落の有志者が集まり、その海軍士官が部落を戦火から救う為に、自分の身命を犠牲にした事が判明した。部落の恩人に感謝の念を捧げる方式を討論した。会議は終に台湾人が謝恩の最高な表現である、祠を建てて、永久に海軍飛行少尉杉浦茂峰の恩徳を顕彰することを衆議一致で決議した。1971年、本格的に祠を建設した。

祠は小さい乍らも（敷地は四坪程）部落の人々の尊崇を集め、毎日遠近から参詣者が多く、殊に日本からの参拝者団体が年中絶えない。

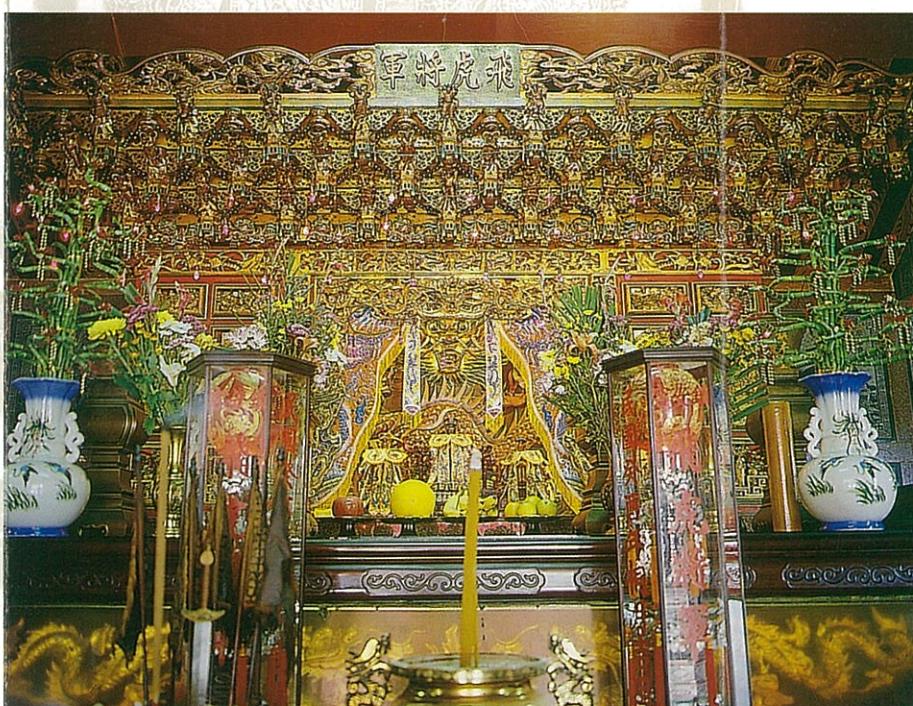
一九九三年、朝皇宮管理委員会の提案で、四坪の小さい祠を再建する事を衆議一致で決議した。多くの信者の協力によって建直した廟は敷地五十坪、廟は台湾風のきらびやか造り、屋根は朱色の瓦、それを支える柱は大理石の豪華なもの。壁には、大理石に彫った英雄史蹟の絵が嵌め込まれており、床はイタリヤ産の大理石で、いつも奇麗に光っている。これはすべて信者の奉獻でした。大理石の柱には詩が刻まれている。この詩を見ただけで建造者の思いが伝わってくる。「正義」「護国」「英雄」「忠義」「大義」等は、すべて「飛虎將軍」に対する尊崇と壮烈な戦死を讃えている。

廟の正面には「鎮安堂・飛虎將軍」と書いた額が掲げられてある。「鎮安」とは、鎮邪安民の意で、「飛虎」は空を飛ぶの意味。「將軍」は神として祭られる勇士の尊称。正殿には本尊「杉浦茂峰」の神像、両脇には分尊二尊が奉安されているが、これは無名氏の像ではなく、信者に請われば、本尊の代理として、その家に迎奉されてお出ましになる。廟守は朝夕二回、タバコを七本点火して神像と写真に捧げて、日本の国歌「君が代」、午後は「海ゆかば」を肅粛と歌うのである。供卓の両脇には中華民国の国旗と日本の国旗が立ててある。

本堂が朝皇宮保生大帝（海尾部落の守り神）に同属した後、管理委員会は廟の整理及び台湾と日本の交流に致身し、日本学術文化各界が更に台湾の認識に力を入れてきた。

- 一、飛虎將軍廟年中行事
1、生誕記念日：陰曆十月十六日
2、御衛慰労日：陰曆六月二十日
3、お盆：陰曆七月十五日
4、御衛慰労日：陰曆十二月二十日
二、遺族連絡先

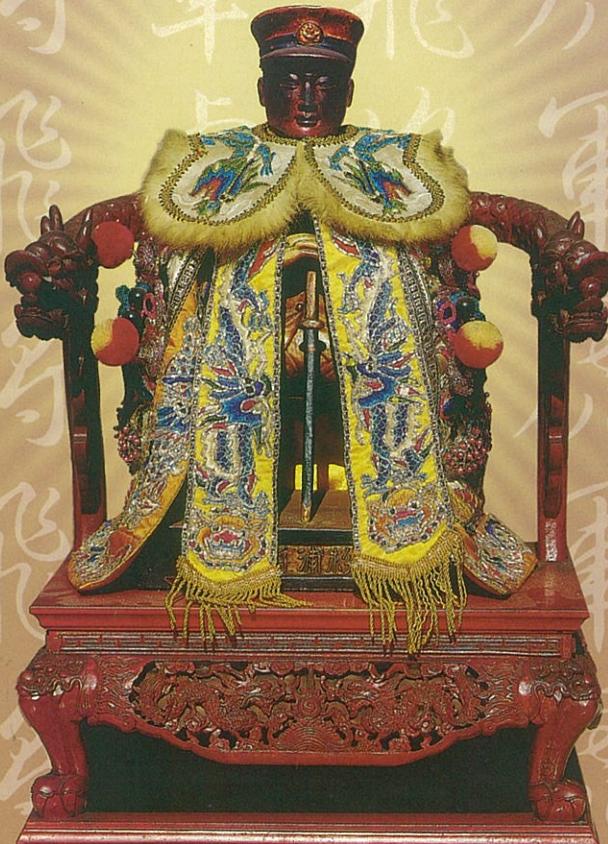
日本茨城県日立市大平四七五
実姉 杉浦 咲さん



廟殿の實景。

鎮安堂

飛虎將軍廟



台南市海尾朝皇宮管理委員會隸屬鎮安堂

廟址：臺南市安南區同安路127號

電話：(06) 247 8884

傳真：(06) 256 7037

鎮安堂・飛虎將軍廟的緣起

鎮安堂（飛虎將軍廟），座落於臺南市安南區海尾同安路127號，隸屬於海尾朝皇宮管理委員會，建於民國六十年，本廟供奉日本海軍飛行員杉浦茂峰少尉。為何一位日本軍人會受到本地居民的尊崇？何以被尊稱為「飛虎將軍」呢？

民國三十三年，美軍大舉展開台灣航空戰，以為從事菲律賓作戰的前哨戰，於是迅速挑起台灣航空決戰，猛烈的空襲台灣各地。

十月十二日上午七時十九分，臺南、高雄的上空已響起轟隆巨響，情況危急，迫在眉睫，日機倉促升空迎擊，二十分戰鬥開始。

在一陣陣你來我往的纏鬥之後，眼看日機一架又一架的被擊落，情況不妙，但是日軍戰鬥機絲毫不退卻，依然很神勇的施行衝撞。依據當時目擊者說，有一架戰機在槍林彈雨中勇敢應戰，不幸尾翼中彈著火，瀕臨爆炸的惡運。這時，飛機從高空陡直急降，飛行員俯瞰「海尾寮」大部落，也許是被可能爆炸後驚悚場面所震懾，暗忖著：現在跳下去，也許自己還有生還的機會，但是好幾百戶的房屋，一定會起火燃燒。以竹子及木材和泥土造成的房屋，一旦火勢蔓延開來…後果不堪設想…

剎那間的判斷，只見機首吃力的被拉高，轉變方向，往部落外圍東邊飛去（現在的同安路一帶，當時都是農地、魚塭），飛機於空中瞬間爆炸。飛行員跳傘逃生，不幸被美軍擊中降落傘，從高空墜落於稻田仰躺（成大字型）而陣亡。他的軍靴寫著「杉浦」

，後經原日本二零一海軍航空隊
分隊長森山敏雄上尉的協



「鎮安堂・飛虎將軍廟」的全景。

助，得知該飛行員為他的隊員「杉浦茂峰」兵曹長，戰歿後褒昇為少尉。

大戰結束後數年，有人目睹一位戴白帽、穿白衣的人，經常徘徊於養殖場附近。起初，以為是趁黑夜來偷魚者，待跑過去查看，又見不到人影，此事非比尋常。爾後目睹此怪現象的村民更多，甚至繪聲繪影，也有人被託夢，傳言四起，人心惶惶。最後經請示海尾朝皇宮保生大帝，說是空戰陣亡的幽魂顯靈。

經保生大帝的指示，始喚起當年目擊者的回憶，原來那架俯衝海尾部落的飛機，是為了怕波及千萬無辜的生靈，才犧牲了自己的生命。因此，在地方有志人士的共識之下，決議於墜機的地方建祠祭祀（民國六十年），以感謝拯救海尾部落的恩人，永久表彰杉浦的恩德。

自從建祠奉祀以後，地方平安，五穀豐收，六畜興旺，「飛虎將軍」深受部落居民的尊崇，每天前來參拜的民眾不計其數，自日本遠道而來的參拜團，更是絡繹不絕，甚至日本元皇族六條有康、伏見博明也前後蒞臨本堂參拜。

民國八十二年，隨著經濟起飛，人人生活安定，由朝皇宮管理委員會提議通過，把原來只佔地四、五坪的祠，改建為廟。由於信徒的鼎力相助，完成為台灣風格的光輝燦煌的造形，紅瓦的屋頂，高大的石柱，美侖美奐。廟宇的正面，懸掛著書寫「鎮安堂・飛虎將軍廟」的面額。「鎮安」是鎮邪安民之意，「飛虎」是戰鬥機之意，

也是飛行之意。「將軍」則為奉祀的人物，無論官階高低，一律尊稱為將軍。廟宇佔地五十坪。高大的石柱，皆為大理石製成；廟宇的內外牆壁都鑲著大理石，上面雕刻歷代英雄史蹟，除了追思外，還有教化作用。（以上建設，皆為信徒自動捐獻）。大理石柱子上刻著詩句。這些詩句，含意深遠，對於飛虎將軍的尊崇，表達得淋漓盡致。詩中出現「正氣」、「護國」、「英雄」、「忠心」、「大義」等字樣，都是極力讚揚其壯烈成仁的精神。

本堂早晚由廟祝點燃七只香煙供奉，並播放日本國歌「君が代」及海軍行進曲「海ゆがば」。供桌兩旁豎立中

華民國國旗及日本國旗。正殿供奉三尊神像，中間為本尊，左右兩尊為分尊，其中兩座分尊是為應信徒之請，迎奉於家裡供拜的。本堂的主神「飛虎將軍」親自下駕，宣示願隸屬於朝皇宮管轄，之後，管理委員會就積極整理及致力於促進中日文化交流，使日本學術文化界，更加了解我國。

• 行事曆

- 農曆10月16日 聖誕千秋
- 農曆6月20日 賞兵
- 農曆7月15日 中元普渡
- 農曆12月20日 賞兵



杉浦茂峰生前英姿
親姐杉浦咲寄贈

